

1980年代から行われてきた早期胃癌に対する内視鏡治療は、ESDとして急速に普及した。低侵襲で、治療後の機能欠損がほとんどない点は他の外科的治療法の追随を許さない。しかしながら、内視鏡治療がスタートしてから20年以上経過した今日でも、ESDが根治的治療法として成立するためには、内視鏡下に完全切除が行え、切除標本が十分病理組織学的検討に耐え、かつ、その結果としてリンパ節転移の可能性が極めて低いと判断される、という条件を満たさねばならない。本号ではリンパ節転移が疑われるm癌の病理形態、X線・内視鏡所見の特徴のみならず、それらの症例に対する縮小手術の是非、適応やQOLを考えた手術術式について、網羅的に詳しく

く述べられている。さらに、市川らは、“早期胃癌手術症例の臨床病理学的解析による統計学的な見地から、内視鏡治療の適応病変を拡大することはもはや限界に近い”と断言し、cDNA Microarray解析を用いた遺伝子異常と臨床病理学的因子の研究の重要性を指摘している。

10人に1人のリンパ節転移陽性早期胃癌症例を判別するために、より精度の高い診断法をいかに発展させ、治療に応用するか、基礎と臨床の双方から、チャレンジが求められる。近い将来、分子生物学手法やsentinel nodeなどの全く新しい概念による転移診断が、早期胃癌内視鏡治療の適応拡大を飛躍的に推進し、再び本誌で主題が組まれることを楽しみにしたい。

胃と腸

8月号(第41巻・第9号) 予告

発売予定 8月25日
定 価 2,625円

主題／通常内視鏡による大腸sm癌の深達度診断 —垂直浸潤距離1,000 μ m 術前診断の現状

序 説	早期大腸癌の深達度診断の現況を問う……………多田消化器クリニック	多 田 正 大
主 題	大腸sm癌のリンパ節転移危険因子の検討……………国立がんセンター中央病院・臨床検査部	立石 陽子・他
症例検討	大腸sm癌深達度診断の現状—前向き検討	
	臨床的考察……………市立旭川病院・消化器病センター	齊藤 裕輔・他
	病理学的考察……………新潟大学・分子・診断病理	味 岡 洋 一
座談会	通常内視鏡による大腸sm癌の深達度診断……………多田消化器クリニック	多田 正大・他

胃と腸 (第41巻 第8号)

編 集 早期胃癌研究会

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷5-24-3

☎ 本誌編集室直通(03)3817-5714

FAX (03)3815-7802/3815-7982

E-mail: itc@igaku-shoin.co.jp

http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/itocho/

2006年7月25日発行(毎月25日発行)

1部定価2,625円(本体2,500円+税5%)

2006年年ぎめ予約購読料36,410円

(増刊号5,985円を含む13冊)(送料弊社負担)

☎ 販売部直通(03)3817-5659

振替口座 00170-9-96693

印 刷 所 永和印刷(株) ☎(03)3813-5001

広告取扱 文 栄 社 ☎(03)3814-8541

- ・早期胃癌研究会は、当研究会、早期胃癌検診協会およびエーザイ株式会社の三者の共催で行われている。
- ・Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2006, Printed in Japan.
- ・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は株式会社医学書院が保有します。
- ・JICLS < 日本著作出版権管理システム委託出版物 >
本誌の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に日本著作出版権管理システム(電話03-3817-5670, FAX03-3815-8199)の許諾を得てください。
- ・医学書院ホームページ(インターネット) <http://www.igaku-shoin.co.jp> (担当)山中・今田・天野・小松原